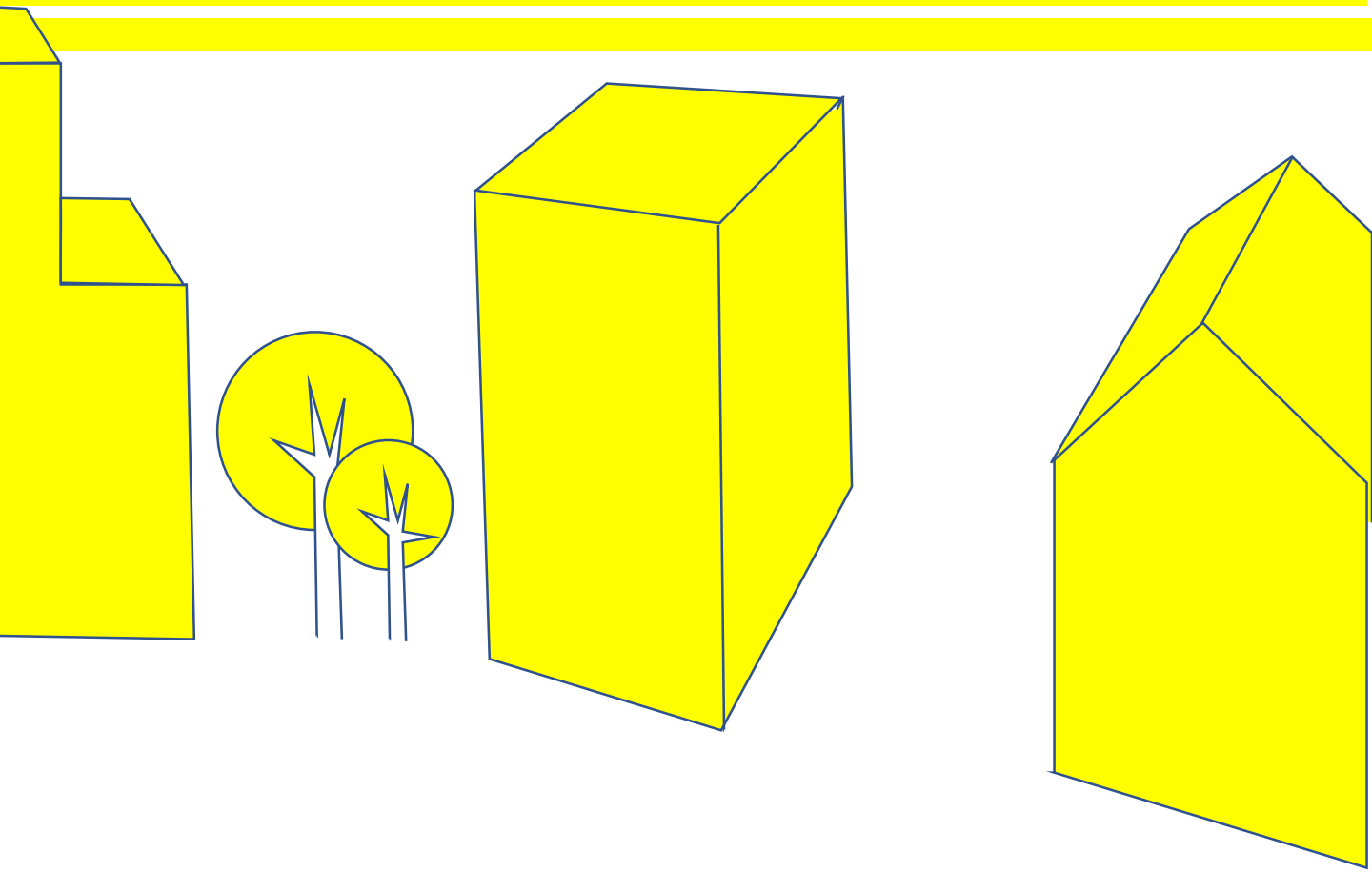
＼岡山市発／
協働で社会をよくする仕組み、紹介マガジン

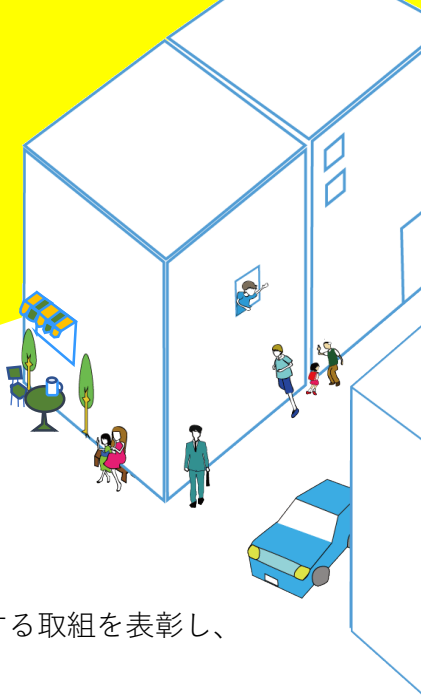
kyoudou

協働通信

Vol.2 2019.03



おかやま
協働のまちづくり賞



協働のまちづくり賞って？

協働により、地域をよりよくしていくための取組として、
2016年に改正した「協働のまちづくり条例」。

改定をした条例のなかには、多様な主体による優れた地域課題解決に関する取組を表彰し、
協働の良い事例を世の中に広げていくとともに、
協働して地域の社会課題解決に関する取組を行い、
豊かで活力ある持続可能な地域社会を実現につなげていくことが挙げられています。
現在、「協働のまちづくり賞」として、その年のテーマに合わせ、優れた取組活動を奨励しています。

活動の大きさに関係なく「地域での協働」を大切にしたものとなっています。

テーマとなる、SDGｓ（持続可能な開発目標）って？

まちづくり賞のテーマは「SDGs」から選ばれています。

SDGs(Sustainable Development Goals)とは，
持続可能な開発のための国際目標です。
（2016年～2030年）
世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され，地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことをめざす普遍的なものであり，岡山市としても積極的に取り組んでいます。

2018年のテーマは
「働きがいと豊かな暮らし」

今年はSDGsの定めるゴールから、
SDGs目標8：働きがいも経済成長も
SDGs目標11：住み続けられるまちづくりを
をテーマとし、活動を募集。その結果、人口減少社会のなかで、若者、女性、高齢者、障がい者を含むすべての市民が、仕事などにやりがいを感じ、社会の一員として活躍できる取組が集まりました。

地域から選ばれる賞に

協働のまちづくり賞は審査会の前にインターネット投票で一般の方にも活動を知っていただき、投票という形で応援をしていただいています。
地域に住むすべての人達が自分たちの環境に関わる団体や活動について知ることができ、地域で選ばれる賞ということを大切にしているためです。
地域の人達からの応援の声を受けたうえで、審査会で審査を行い、賞の最終決定を行っています。
賞を選ぶ基準はホームページなどでも公開をしていますが、これは選ばれる基準を明確にすることで、どのような活動を求めているかを共有するためでもあります。審査基準は指標でもあり、「どのように活動を進めるのが好ましいのか」の投げかけでもあります。

協働のまちづくり賞（審査基準）

【1】テーマとの整合性
募集テーマに沿った取組であり、そのテーマがどれだけ取組の中で実現されているか。

【2】成果の妥当性（解決をめざした取組の成果）
解決しようとしている社会課題が明確であり、取組によりどれだけ課題の解決が進んだか、または、今後の成果が期待できるか。

【3】協働力（協働の原則〔岡山市協働のまちづくり条例第４条〕に照らした協働の成果）
協働している団体の特性が発揮され、役割分担を明確にして、共有する目的のために活動しているか。

【4】公益性・公共性
市民ニーズが高く、社会課題解決により公共の利益につながるか。

【5】地域への貢献度
地域資源や人的資源の活用などの工夫がみられ、また、社会課題解決が豊かで活力ある地域社会づくり、岡山市づくりにつながるか。

【6】継続性
一過性のものでなく、将来に向けた継続性があるか。
（ただし、課題の解決が果たせたなど、目的が達成した取組の場合は、その取組そのものが終了していても取組の成果効果等の継続で判断します。）

【7】先駆性・独創性
先駆的な取組であるか、また、特色ある取組であるか。

2019年SDGｓフォーラムでの表彰式。分科会では事例紹介も。

そして今回の表彰式はSDGｓフォーラムとともに開催。
多くの方に表彰の場にお越しいただき、活動を称えることができました。また表彰と基調講演の終了後は分科会に分かれ、まちづくり賞受賞団体の活動とSDGSの関連性と、これからSDGsの達成に向けてどのようなことが最も必要だと思うか？という問いかけについてのパネルディスカッションが行われました。
(活動紹介ならびに分科会の様子は次ページで紹介)

トロフィーも地域の協賛！

大賞、入賞それぞれに贈られたクリスタルトロフィーは橋本財団様からの協賛で贈られました。
「地域全体で表彰しよう！」
という想いから、地域で頑張っている団体を応援したい企業や団体は毎年募集しており、みんなで活動を応援していただくという形をとっております。
トロフィーに限らず、ご関心のある皆様はまたご連絡いただけますようお願いいたします。

2019年2月17日（日）に国際交流センターで賞の表彰式が行われました。
賞は大賞・入賞・奨励賞に分かれ、表彰式後の分科会では大賞と入賞の取組発表を行いました。
このページでは受賞団体の活動紹介とともに、分科会で発表されたSDGsゴールを達成するために大切にしていることをお伝えします。

大賞

西日本豪雨災害支援ボランティア「自由あそびのひろば」 助け合うお母さんの会

7月豪雨で被害を受けた子育て世代の親子の支援を目的とし、隣接する地域住民(中心となる団体は小さな子を持つ約60人のママ)を主体として、岡山市東区瀬戸町江尻レストパークにて「自由あそびのひろば」を開設。災害の後片付けなどに追われるママたちの助けに少しでもなれればと、子どもたちの預かりや居場所づくりからスタート。地域で助けが必要な人がいたら住民の自分たちが主体となって迷わずすぐに手を繋ぐ、そんな地域でありたい。その背中を子どもたちへ示したい。そして、支援する側もされる側も、同じ子育て世代として共に子育てをしていきたい。それらの思いを大切に、参加してくれた皆さんと一緒に今できる精一杯の支援を行った。

SDG s ゴールに向けて

「ありがとう」の言葉がけを少し多めに行って、ひとりではなくみんなで担うこと。

入賞

「岡山市北区京山地区 地域の絆プロジェクト」

岡山市北区京山地区ESD推進協議会

岡山市北区京山地区ESD推進協議会は地区が目指す目標と取組を設定しています。その中に「障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる、安全で安心な住みよい地域」を掲げています。「地域の絆プロジェクト」はその目標達成のために様々な団体との協働行動の中心として活動をしています。

（1）自転車マナーに取組む「やさしく走ろう京山」運動
（2）支援が必要な子どもたちについて保護者が交流する「子育てトーク」
（3）誰もが参加できる交流の場「京山みんなのカフェ」
（4）世代を超えてつながるために、高校生の企画運営する『京山えーもの探検隊』
（5）地区の取組などを紹介する「地域の絆プロジェクトだより」

この5項目を「5つの柱」と位置付け、課題解決へ取り組んでいます。

SDG s ゴールに向けて

・普及・啓発に力を入れ、沢山の人に関わってもらうこと。
・自分たちにできることを考えてとにかくやってみること。

入賞

「～「ノラ猫」ではなく「地域猫」へ～ 猫と人間が共生する地域をつくりたい！！」

NPO法人岡山ニャンとかし隊

1人で100匹を救うのではなく、目の前の1匹を救える人材を100人育てることを目標にボランティア育成に取り組みます。様々な広報・啓発活動により、所有者のいない猫対策を行う地域を増やし、活動を継続するための支援基盤の整備を通じて、域内で所有者のいない猫を少なくします。
さらに、岡山市だけにとどまらず、岡山県の行政担当者ともネットワークを拡げ対策支援の拡大を目指します。なお、地域に所有者のいない猫が少なくなることで殺処分される猫が減少することが期待できるほか、対策を通じて動物愛護の普及と実践の機会を提供することで人と猫の調和のとれたまちづくりへつなげていきます。

SDG s ゴールに向けて

地域の人が「一緒に参加する」という意識をもち、地域と一緒に盛り上がること。

入賞

「ひよこ子ども食堂」
NPO法人ひよこ子ども食堂

おいしい！また食べたい！と評判の3世代交流型の食堂です。住宅地の民家で、近所のベテランのお母さん方が食事をつくります。（毎月第2土曜の昼、先着30名、子ども無料、大人300円）食材は近くの農家2軒と岡山青果食品から頂いた野菜や果物。食事の合間に行う中国学園大学の学生による紙芝居には、わくわくドキドキ、賑やかです。一緒に行っているひよこ学習塾（場所はひよこ子ども食堂、毎週土曜の午前中、主に小学生対象、受講料：無料）の目的は基本的な学習習慣を身に付け、基礎学力の向上させること。近所の夜間中学の先生、大学生、中学生がボランティアとしてサポート。子ども本人の興味・関心に寄り添う、楽しく学ぶ場となっています。

SDG s ゴールに向けて

イベント的なものとして終始せず、
日常的な場づくりをすること。

入賞

「支援を必要とする子どもの仕事体験活動 ～よつばの会～」
よつばの会

外見ではわかりにくい発達障害のある子どもが、1企業週1回1時間、半年に渡り、サポーターと一緒に仕事体験をします。初めての場所や経験、コミュニケーションをとるのが苦手な子どもも、職場で「ありがとう」と感謝され、人の役に立つことで自己肯定感が芽生えます。保護者、地域住民（サポーター）、受入れ企業、行政機関で支え合い、定例会は一堂に会し、サポーター報告を聞きます。皆で話し、障害理解が広がり、成長を喜び、関係が深まります。
障害のある子どもも社会の一員として経験を重ね、地域で知り合いを増やし、生き生きと人生を歩んでほしい。出会い、つながり、やりがいを感じる、安心して住み続ける地域を育てる活動です。

SDG s ゴールに向けて

焦らず慌てず諦めず、
人を育て、
話し合いながら
次世代に継承すること。

奨励賞

「３世代キラリ交流会」
３世代キラリ交流会実行委員会

「西川エリアの魅力向上のためのまち育て協議体の設立 ～自然ロケーションと地域資源を融合した仕組みづくり～」
西川エリアまち育て協議体

「耕作放棄地再生で小人数による6次産業の起業（もち麦＆蕎麦でまちおこし）」
蕎麦でイキイキ実行委員会

「下之町商店会プレゼンツ オーケストラリハーサル イン ルネス」
協同組合岡山市下之町商店会

区づくり推進事業「地域活動部門」ってなんだろう？

区づくり推進事業は地域におけるまちづくりを推進するため、各区の区民自らが主体となって企画・運営する区の特色を活かした事業を応援するもので、地域交流を促進する交流イベント等を対象とする「身近な交流部門」「広域交流部門」、課題解決型の地域活動や組織づくり等を対象とする「地域活動部門」に分かれています。

今回紹介する「地域活動部門」は、地域住民組織（町内会など）をはじめ、ＮＰＯ法人やボランティア団体、学校・企業等多様な主体 が手をとりあい、地域課題を解決するための継続的な取組を支援する制度。 区民が主体的に協働し、解決のために活動することで、地域の課題解決力を育み、持続可能で暮らしやすい地域づくり、区のまちづくりを推進することを目的にしたものになります。

今回は区づくり推進事業の中でも、４つの分野での活動紹介をさせていただきます！

①地域課題の解決のために行う活動

地域の「困った」「なんとかしたい」を解決する ための活動になります。現在、区づくり推進事業のなかでも一番多く提案される分野で、内容も「地域の文化の継承」や「子育て」など、地域の属性に合わせた様々なテーマがあります。　提案には地域課題を明確にしておくことが必要です。

事例 「平島・元気で輝き事業」（平島健康福祉委員会）

今後更に少子高齢化が進む中で、平島学区に住む高齢者が安心して過ごせる地域をつくる事が、地域の大きな課題です。その為小地域ケア会議で検討を重ね、2016年度から、生活支援サービスや集う場づくり（井戸端カフェ）を通して地域住民の健康と福祉に寄与する事を目的とした事業を開始しました。

2017年度は2か所に増えた井戸端カフェは、高齢者だけでなく子どもたちも参加できるようにし、また各種団体で活動している方だけでなく、事業に関心を持っている個人にも声かけをして会員の拡大を図りながら、事業を継続・充実させています。（28年度から継続実施中）

②地域課題の掘り起しのために行う活動

地域の課題の全体像や将来の見通しを抱かずに活動を進めると、解決する手法が分からなかったり、課題解決を進めることが困難な状況に直面する場合もあります。

地域ニーズ調査、地域実態調査や、ワークショップなどで、何に困っていて、何が原因なのかを見出すための取組を見出す活動です。

事例 「これからも住みやすい地域づくり」に向けたアンケート調査（特定非営利活動法人城東台みんなの互助会）

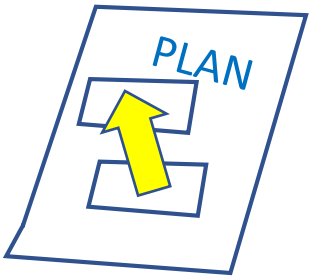
写真

大規模団地が造成されてから30年、新築して移り住んだ第一世代が一斉に後期高齢化を迎えます。
一方、第一世代の子どもたちの多くは同居しておらず、日常生活における血縁関係を軸にした世代間の支え合いが期待できない世帯が多数となってきます。また住民同士は、もともと見ず知らずの寄り集まりであり、入居後の交流が必ずしも活発とはいえないことから、近隣での見守りや支え合いも機能しにくい状況です。

そこで、対象者を世帯ではなく高校生以上のすべての個人に対してアンケートを実施し、必要と感じている機能やサービスについて調査を行っています。

（平成30年度から実施）

③地域計画づくりのために行う活動



地域活性化のための計画づくり、地域宣言や地域 キャラクターづくりなど地域の未来を描く活動です。

事例 「産地牟佐」にこだわった地域活性化

（牟佐町内会）

牟佐地区は、農家が積極的に黄ニラやパクチーなどを全国的に売出し注目を集める一方で、地域の方や子どもたちが地元の特産物や史跡等の地域資源に触れる機会が非常に少なくなってきています。
地域の方々が、自然の恵みが身近に存在することを知り、牟佐ならではの特産物を作りることで、地元に対する愛情、誇り、アイデンティティの醸成につながることを目指しています。
また地域を取り巻く自然資源に目が向きづらい状況に対し、庁内での農産物被害対策としての有害獣の駆除活動の紹介・学習や、町内で駆除されたイノシシ等のジビエ利用や皮革活用などを行っています。（平成29年度から継続実施中）

④課題解決型の地域組織づくりのために行う活動

地域リーダー・コーディネーターの 養成や、学生やボランティアなどが地域活動に参加できるしくみづくり等を行う活動です。

事例 「平井学区地域づくり会議」（平井学区地域づくり会議）

人間関係が希薄化した昨今、平井学区でも地域コミュニティー崩壊が問題となっています。そこで2014年度に地域主体の「地域づくり会議」を立ち上げ、2015年度に地域課題のアンケート調査を行いました。
地域づくり会議は、地域に密着した情報の共有や課題解決の場とし、アンケート結果を活用し、課題解決に向けた話し合いや方向付け、支援体制等を総合的に調整し推進することにより、地域で支え合い、安全で安心して笑顔で暮らせる平井学区を目指します。
（27年度から継続実施中）

応募をする前に「地域の現状を把握しよう」

自分が住む地域で本当に必要とされていることはなんでしょうか？
地域のために何かをしたいという気持ちから色んなアイディアが生まれますが、そのアイディアに対し、「それは誰に対して、どの課題に対して必要なのか？」といった問いを持ち、地域の現状を把握することがとても大切です。
たとえば防災事業を行う際、あなたが住んでいる地域に多い人で困りそうな人はどんな人が多いでしょうか？　高齢者でしょうか？　子育て世帯でしょうか？　外国人の移住者でしょうか？
相手により、必要な事業内容や状況も変わってくるのではないでしょうか。
事業を応募する前に、ぜひ地域の皆さんで集まり、現状の把握から始めることをおすすめします。

区づくり推進事業を進めるポイント

本事業は地域の課題の解決を目指すものですが、簡単に解消できる課題は多くないほか、地域の課題も多岐に渡ることが考えられます。事業の持続可能性を高めるために必要となる資源を調達し続けるポイントをお伝えします。

①自主財源の獲得に努める

行政の財源には限りがあります。事業を継続させるだけでなく事業の柔軟性を高めるうえでも自主財源は大きな意義を持ちます。

②多様な主体を巻き込む

地域の課題は地域の資源だけで解決できるとは限りません。
様々な人・組織を巻き込むことで必要となる資源を補完するとともに地域内の人材育成や理解者の拡大につなげていきましょう。

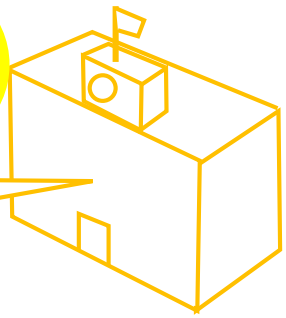
③「棚卸し」で資源と時間を節約する

「行事の棚卸し」
定例行事の頻度を減らす。または廃止する。
「会議の棚卸し」
議題と進行をシンプルに。現場で動く時間を優先する。
「組織の棚卸し」
機能していない組織、役割を統合または廃止する。

ESD・市民協働推進センター紹介

ESD・市民協働推進センターは「協働を推進するためのコーディネート機関」です。人材育成、情報共有および交流機会の創出、社会課題解決のための取り組みの推進などを担います。

相談・提案　**情報収集**　**事業参加**



岡山市役所2階にあります！

よく受けるご相談

ESD・市民協働推進センターって何をしているのかよくわからないんだけど、おすすめの使い方があれば教えて

高平センター長からの回答

センターの活動については「協働通信」のVol.1とVol.2（本号）で概ねご紹介できたと思いますので、ここではおすすめの使い方をご提案をさせていただきたいと思います。

「協働のパートナー探し」

私たちは結婚における「仲人」のような存在と考えていただけるとわかりやすいかもしれません。例えば、市役所の職員さんから「来年度から〇〇に関する事業を実施することになったんだけどよいパートナーとなるNPOを教えてほしい」といったご相談を受け、実績のあるNPOとの交渉機会をセッティングしたこともあれば、逆にNPOの関係者さんから「来年度、〇〇に関する事業を実施したいんだけど岡山市の協力を得られるかな？」といったご相談を受けて、関係部署から今後の方針などを教えてもらうミーティングをセッティングしたこともあります。

お見合いと同様に必ずしも双方の希望する結果に至るとは限りませんが、お互いに対する理解が深まり、継続的に情報交換が行われたり、気軽に相談しあえるようなきっかけになっていることは間違いありません。

また、私たちの役割は希望に合った相手を紹介するだけではありません。

よりよい協働事業を実現していただくため、教会の神父さんが語る「誓いの言葉」のように「協働の基本原則」に沿って共通の目標やお互いの特性・役割を明らかになっているか、対等でお互いに自立した関係を維持することができるかなどを確認しています。

（センター長：高平亮）

発行・問合せ：ESD・市民協働推進センター

岡山市北区大供一丁目1番1号岡山市役所2階市民協働局市民協働企画総務課となり
TEL：086-803-1062　/　070-5055-7589
E-mail：esd-smc@googlegroups.com